

1998年6月20日

ディケンズフェロウシップ ニュースレター

ことのほか暑かった5月のあと梅雨入りで涼しくなりました。みなさまお変わりなくお過ごしですか。

去る6月6日(土)に春季大会が、中村隆氏をはじめ山形大学関係者の方々のお骨折りで、山形県生涯学習センター『遊学館』3階の1室で開催されました。参加者は45名。今回参加されなかった方々のために以下に大会のあらましをご報告します。研究発表、シンポジウムともに、内容の要旨は会報に掲載されます。

1.開会の挨拶

小池支部長より春季大会開催に尽力された上記の方々に感謝の言葉が述べられたあと次年度予算についての協議および秋季大会について伝達があった。

- i) 次年度予算：別紙の予算が原案どおり承認された。
- ii) 秋季大会:10月3日(土)東京女子大学で開催される。アンドリュー・サンダース氏(ダラム大学教授)の講演を予定している。研究発表を希望する方は支部長まで申し出てほしい。

2.研究発表

青木健氏(成城大学)の司会で、次の2つの研究発表がおこなわれた。

- i) 宮丸祐二(慶応大学大学院)「逸脱した肉体 ピックウィック症候群の2症例」
- ii) 武井暁子(淑徳大学)「『互いの友』に見るアイデンティティの混乱：帝国主義、階級、ジェンダーの視点から」

それぞれ発表のあとで質疑応答があり、先輩ディケンジアン諸氏からの示唆に富むコメントもあった。

3.シンポジウム：『ディケンズと狂気』

原英一氏(東北大学)の司会で、松岡光治氏(名古屋大学) 小野寺進氏(弘前大学) 金山亮太氏(新潟大学)の3氏が、論旨を豊富な引用で裏付けながら、ディケンズ文学に描かれた狂気の社会的機能や文学的意味などを論じた。フロアから相ついで出た質問ともども、定められた時間内におさめきれないほど豊かな内容だった。

大会終了後・ホテルキャッスルで懇親会が開かれました。参加者は40名。やや少ない人数であったにもかかわらず、研究の部と同様、このコンヴィヴィアリティの部も賑やかでした。

秋には東京でまたお会いしましょう。